

吉岡藤左衛門と羽二重

明治二十六年、下の江の木下三郎が太目糸を使って軽目羽二重を試織した、根上織維工業史によれば、これは日本に於ける一本経羽二重製織の嚆矢である、と言う。

明治三十年福井・小松間に鉄道が開通した。翌年福江・江ノ島・釜屋・湊の四校合同で金沢市に修学旅行をしている、のが翌年の三十一年であるから、羽二重製織を目指す、吉岡藤左衛門にとつては製品の輸送には、鉄道輸送と駅開設は緊急の要請であつたであらう。

明治三十四年、寺井村長・松阪力勝や江ノ島村長の西居四郎平ら九村長連署で、北陸鉄道停車場設置の請願書を作成した。

明治三十七年二月に、ロシアに対して宣戦布告をし、五月に第九師団に動員令が發せられ、六月に九師団の兵員輸送が始まつている。

同じくこの月に、歩兵七連隊出征、戦死者も出始め非常時であつた。翌年、日本海海戦で大勝し、九月に日露平和条約が成立。

明治三十九年一月、早くも江ノ島村長・中山庄右衛門が平井晴二郎鉄道作業局長に対し北陸線停車場設置の請願書を出している。

この時、九師団司令部や歩兵第七連隊も金澤に凱旋しているのので、石川県中戦勝と未来に向かつての意気盛んな時代が訪れた事になる。

この、目出度い四月、吉岡藤左衛門らは、北陸鉄道停車場敷地として四千坪の敷地の寄付を申請している。

この年、富山・直江津間の鉄道工事に着手しているので、吉岡氏の情

報キヤンチには感心する。

Handwritten text in Japanese, including names like 吉岡藤左衛門 (Yoshioka Tōsaiemon) and 中山庄右衛門 (Nakashima Saburōemon), and various signatures and dates. The text is written in a cursive style (sōsho) and appears to be a collection of letters or documents related to the railway project mentioned in the main text.